

「札幌市廃棄物減量等推進審議会」第1回資源化部会の概要

I 開催日時・場所

日 時：令和8年9月2日（水）9：30～11：45

場 所：札幌市役所 地下1階 2号会議室

出席者：北海道大学大学院工学研究院教授 石井会長

北海学園大学経済学部教授 西村部会長

市民公募委員 管藤委員

環境省北海道環境局資源循環・災害廃棄物対策課長 菅原委員

北海道大学大学院工学研究院助教 HAM委員

公益社団法人札幌消費者協会理事 松永委員

欠席者：札幌商工会議所女性会会長 犬嶋委員

II 会議の概要

1. 現状報告

(1) 報告事項 市民参加の取組状況（ワークショップ等）

- ・ワークショップの開催概要と主な意見
- ・オープンハウスの実施概要とシール投票結果

(2) 資源循環における民間ルートの可能性（石井会長）

- ・廃棄物等の流れとリサイクル率の考え方
- ・一般廃棄物における官民連携ルート

(3) 部会の進め方

- ・部会全体の流れ

(4) 札幌市の取組状況と他都市事例

- ・札幌市における資源化施策（別紙1）
- ・現計画の施策体系（別紙2）
- ・参考資料 資源化（リサイクル）とは
札幌市における資源化施策
他都市事例

2. 各委員からの意見

(1) 報告事項 市民参加の取組状況（ワークショップ等）

西村部会長・石井会長、管藤委員、菅原委員、HAM委員、松永委員

- 高齢化により、ごみ出しや拠点回収に持っていけない、遠くて歩いていけない、車も運転できない人たちが今後も増えてくる。
- ごみを多く出さなければ回収拠点を使う必要はないと思う。実際に回収拠点を利用する人は、家の片付けで古着や古紙がたくさん出た、年末に家を空ける際に容器包装プラスチックを置いておきたくないといった理由が多いと思う。
- 民間の回収拠点が近い距離にある中で、漠然と回収拠点を利用したいという理由は何なのか、場所や管理する人も必要になるため、増やせばよいというのは少し疑問に思う。
- オンラインの買い物が増えて資源ごみが増えている。集団回収といっても月に1回程度。回収日まで待つこともできるが、今の若い方は出したいと思った時に出したいため、回収拠点が使われていると思う。
- 週に1回は民間の拠点回収を使用する。集団回収は月に1、2回のため毎回回収日を確認しなければならず、車でアクセスできるなら回収拠点を利用している。

(2) 資源循環における民間ルートの可能性 西村部会長・石井会長

- エネルギー回収等も資源化部会に入ってくるという認識。未利用物の利活用では林地残

材や農業残渣がある。すき込んで使う分は農水省では利用したものと扱われ、外に出して処理すると廃棄物になるが、自分で使ったり、燃料として使うもの、他で有価や譲渡で使うものは全て未利用物の利活用の範疇に入る。

(3) 部会の進め方

- ・ 各委員からの質疑等なし。

(4) 札幌市の取組状況と他都市事例

- 分別・排出ルールの周知・徹底・具体的な行動につなげる普及啓発の実施
西村部会長、石井会長、管藤委員、HAM委員
 - 道内では、転入時に（分別・排出ルールに関して）丁寧な説明をしている自治体もある。転入者に対するきめ細かな説明や広報は、予算の中で可能性があるなら検討してもよいのではないか。
 - 若者の情報収集手段は、従来の紙媒体から、SNS（InstagramやTikTok等）などに変わってきている。アプリをダウンロードして見ることにハードルがあると思うので、若年層に向けて効果的に発信していくための媒体活用を推進していくべき。
 - 学生マンションのごみステーションやごみ袋等へQRコード配置（ごみ分別のサイトにアクセス）、自治体によるSNS動画発信等、ごみゼロ月間（5月）などの定例的なキャンペーン展開など、継続的に広報を行っていくことが必要。
 - 根性論や意識啓発による分別の推進には限界があるため、製品プラスチック一括回収のような市民が無理なく自然に協力できる仕組みを導入することが分別意欲を高める取組として大事。
- 資源回収の促進に向けた取組
西村部会長、石井会長、松永委員
 - 紙類の減少などにより（1か所あたりの）回収効率が落ち、回収事業者の負担が増えているのではないか。
 - 仙台市のように（雑がみの）取扱品目を増やしたり、拠点回収に民間業者の古紙ボックスを設置・貸与するなど、効率的な収集により市の回収量削減に寄与する集団資源回収や拠点回収を推進する余地がある。
- 事業者による自主的な取組の促進
西村部会長、石井会長、菅原委員
 - ショッピングモールやフードコートなど店が集中しているところをターゲットに調査し、食品ロス削減とセットで生ごみリサイクルをお願いすることが得策。店が入れ替わるときに周知する仕組みづくりも大事。
 - 生ごみリサイクルについて、飲食店、スーパー、ホテル等、コストパフォーマンスが高いところをターゲットとしていくことが大事。
 - 食品ロス全体を少なくするというのであれば、フードドライブなどと組み合わせると全体としての効果は高い。
 - 民間同士で接点を持って取り組めるようなことが生まれると良い。
 - 事業系紙ごみは分別について、事業者側に金銭的インセンティブが働きにくい現状があるため、燃やせるごみを排出する際の負担（処理コスト等）が増えない限り、事業者による自主的な分別・資源化を進めるのは厳しい。
 - 事業者の環境への意識は、時代によってベクトルが変わるため、脱炭素やネイチャーポジティブの視点で、ごみの削減等に寄与するという情報発信を行い、事業者に響く形で事業系ごみの削減やリサイクルを入れ込む必要がある。
 - 川崎市のように事業者の自主的な取組を積極的に紹介すると事業者側もやりがいにもつながる。

- 製品プラスチックの回収

西村部会長、菅原委員、松永委員

- 仙台市在住時に製品プラスチックを容器包装プラスチックと一緒に排出できたが、市民にとって非常に分かりやすく、プラ製品を集める手段としても効果的だった。
- 拡大生産者責任を求めるのは難しいのか。
- ワークショップでも「プラスチックを再生したら何になるかがよく見えない」という声があった。ごみ分けガイドの資源の行方はベンチやパレット、プランターと何年も同じで、若い人にはパレットの意味も通じない。
- 容器包装プラスチックは、自治体だけでなく市民も企業も関わる仕組みであることを知らない人が多く、製品プラスチックが混入して回収現場が悩んでいる現状もある。パレットのようなものより、環境問題や命を守ることにつながることをアピールする必要がある。
- 若い方が分別やごみ減量の様子をInstagramで発信する例が非常に多く、「素敵なものになるなら分別しよう」という気持ちになるので、いろいろな世代の気持ちに引っかかるアピールが必要。

- 紙おむつ・焼却灰リサイクル

西村部会長、石井会長

- 紙おむつリサイクルは、焼却施設を持たず埋立を減らす意図のある小さな市町村が多く、その他の市町村の大半は焼却されている現状。札幌市近郊にもリサイクル施設ができたため、介護施設など大量に排出される事業系から始めていくのが適当。
- 家庭系の紙おむつまで分別回収を広げると仕組みづくりが大変なため、事業系から始めるのが現実的。
- 焼却灰リサイクルについて、民間施設の受入費用や輸送費用が上がっていく場合には、埋立を選択した方が望ましいという判断になることもある。

- 枝・葉・草リサイクル

西村部会長、石井会長、HAM委員、松永委員

- 堆肥化後の残渣をRDF等へ燃料化するのが困難であれば、無料収集を維持した上で、堆肥化を経ずに直接焼却へ回す方が適当ではないか。
- 有料化の際に、市民の減量努力が難しいものを有料化の対象としないために分別収集が始まったもの。
- 現在でも民間の生ごみの堆肥化施設において収集した枝・葉・草の一部が活用されているので、全て焼却に移行するということではなく、需要に応じたやり方が必要。
- それ以外にも、回収拠点に直接持ち込めばリサイクルできるなど、多様な枝・葉・草のリサイクルのやり方を市民に見せいくことが大事。
- 資源化を進める観点からすると堆肥化が厳しいと結論を出すのは苦しい部分もあるが、人手なども限られた中で資源をどう有効に使うかが重要であり、次回以降も議論を続けて方向性を出していきたい。
- 竹などの堆肥化されず残渣になるものや、農薬や除草剤が残る堆肥化不適物も排出されている現状がある。本当のリサイクルとは何かという市民教育が必要であり、しっかり発信し、ごみに対する意識を考えるべきだと思っている。